

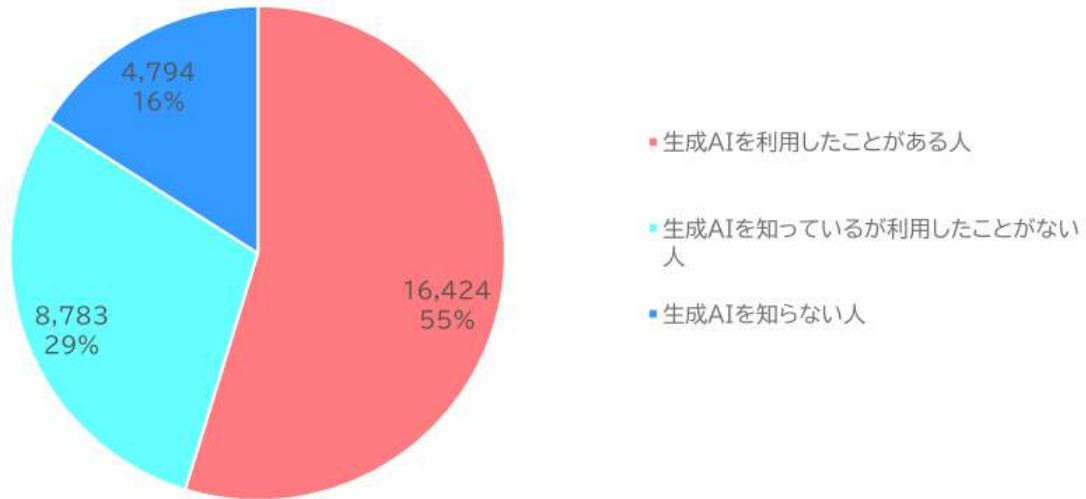
「10代中心 55%に利用者急増 内閣府消費者委員会生成AI調査」

10代以上の日本人の55%が生成AI（人工知能）を利用しており、このうち半数以上が生成AIを信頼していることが、内閣府消費者委員会の調査で明らかになった。利用が飛び抜けて多いのが「対話型（チャット）AI」で、生成AI利用者の72%が活用している。一方、「偽情報の拡散」「個人情報やプライバシーの侵害」「思考力・判断力の低下」を利用に関する不安として挙げた人もそれぞれ6割いる。しかし、利用頻度が週1回以上という利用者が7割に上り、「利用することで生活がよくなった」とする人も57%で「悪くなった」はわずか1.5%、など生成AIの利用者に加え、肯定的な見方をする利用者も急激に増えている日本の現状をうかがわせる結果となっている。特に10~19歳の積極的な利用状況が目を引く。

人間と似たような受け答えをする対話型の登場で生成AIの利用者は世界中で急激に増えている。一方、悪影響の懸念も同時に高まっており、特に青少年に対する利用規制を始める国も出ている。内閣府が事務局となっている消費者委員会は、消費者・事業者のAI技術の利用によって生じる問題への対応を検討するため、「人工知能（AI）技術の利用と消費者問題に関する専門調査会」を2月に設置した。3月31日の第2回会合で明らかにされたのが「生成AI利用者の利用実態に関するアンケート結果速報」。30,001人を対象とした事前調査で絞り込んだ10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上の生成AI利用者男女各103人、合計1,442人に対し、2月16~18日に実施したインターネット調査結果だ。

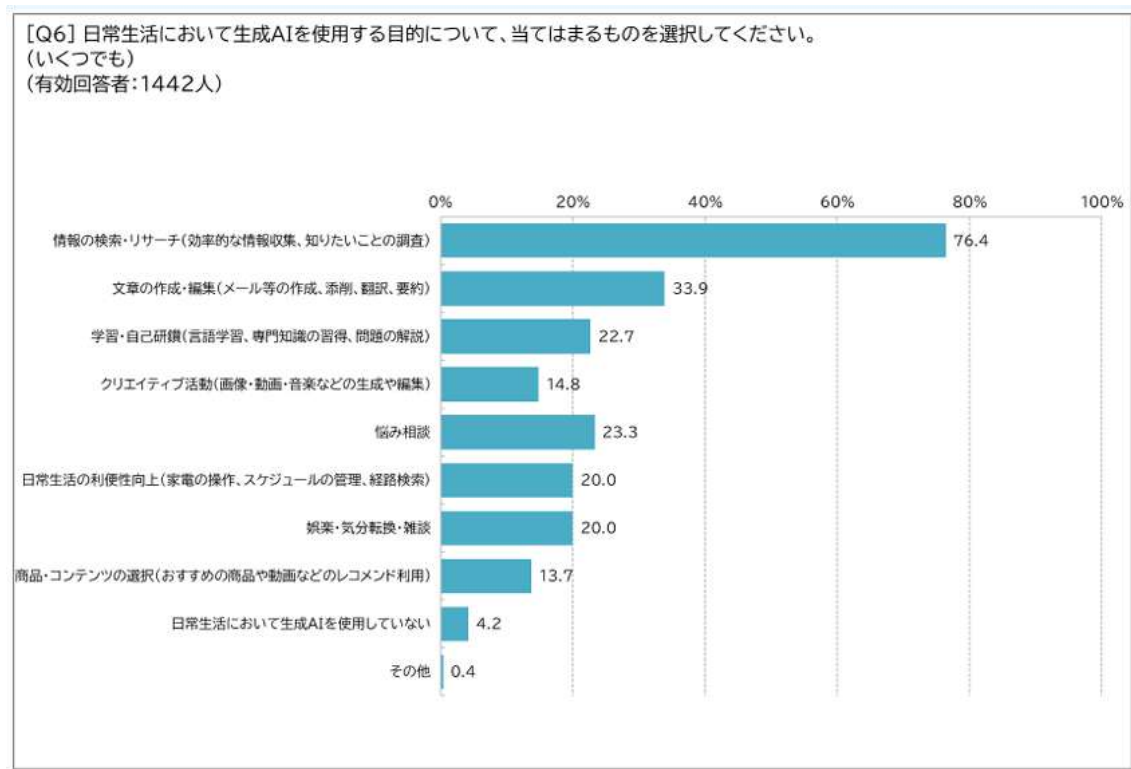
事前調査で明らかになったのが、生成AIを利用したことがある人は55%、知っているが利用したことはない人は29%、知らない人は16%という現状。このうち利用したことがある1,442人に絞って実施した調査結果では、日常生活においては生成AIを利用していないとした人が4.2%いたものの、76.4%が「情報の検索・リサーチ」に利用し、続いて「文章の作成・編集」33.9%、「悩み・相談」23.3%、「学習・自己研鑽」22.7%が利用法の上位に並ぶ現状が明らかになった。

生成AI利用率 (有効回答者:30001人)



事前調査を基に、事務局にて作成。

(内閣府「生成 AI 利用者の利用実態に関するアンケート結果速報」から)



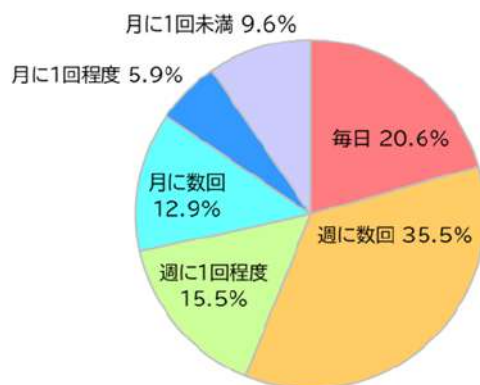
(内閣府「生成 AI 利用者の利用実態に関するアンケート結果速報」から)

生成AIで生活良くなった57%

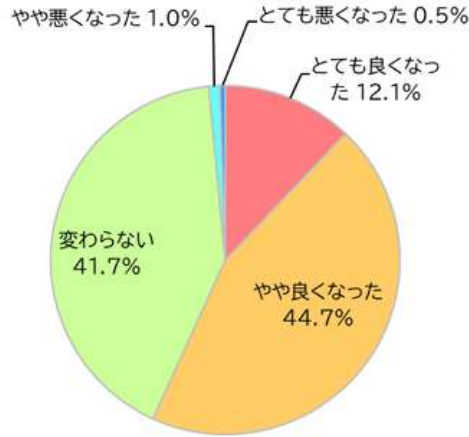
利用頻度はどうか。毎日利用が20.6%、週に数回が35.5%、週に1回程度が15.5%と週に1回以上利用する人が70%以上を占める。月に1回未満は9.6%しかいない。さらに「生成AIがあなたの生活にどのような影響を与えていると思うか」との質問に対し、「とても良くなった」が12.1%、「やや良くなった」44.7%と約57%が「良くなった」と答えている。「とても悪くなった」0.5%、「やや悪くなった」1.0%と、「悪くなった」とする人はわずか1.5%しかいない。

良い影響として最も多かったのは「情報収集が楽になった（検索や調査がスムーズ）」の52.9%。次いで「時間の節約ができた（作業効率が上がった）」45.6%、「新しいアイデアや発想が得られた」27.6%、「文章や資料の質が向上した」21.6%といった効果が上位に並ぶ。「どのような悪い影響があったか」という質問に対して最も多かったのは「（悪い）影響はない」の46.3%。次いで多かったのが「AIに頼りすぎて自分で考える時間が減った」の23.2%だったが、「（悪い）影響はない」の約半数にとどまる。

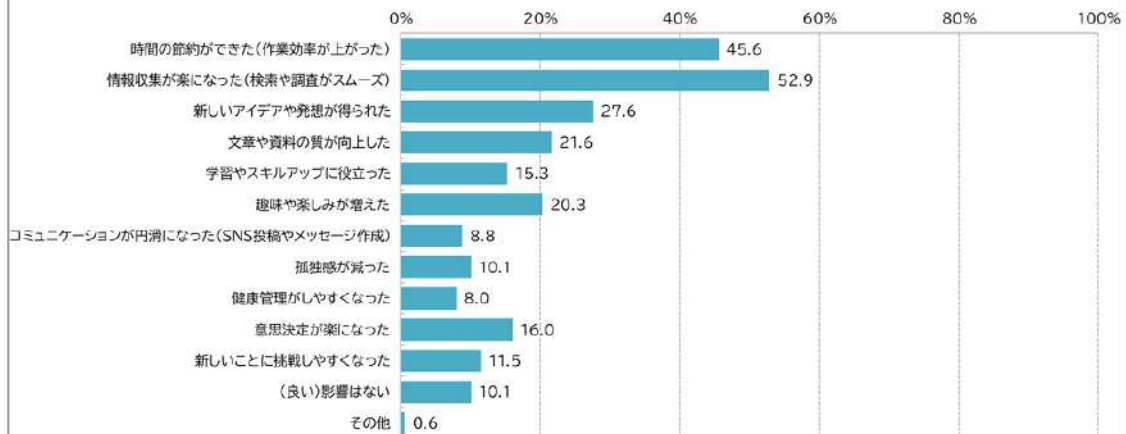
【Q7】日常生活での生成AIの利用頻度を教えてください。
(有効回答者:1382人)



[Q16] 生成AIの利用があなたの生活にどのような影響を与えていると思いますか。
 (有効回答者:1442人)



[Q17] どのような良い影響がありましたか。
 (いくつでも)
 (有効回答者:1442人)



(内閣府「生成 AI 利用者の利用実態に関するアンケート結果速報」から)

目を引く 10~19 歳の対応

一方、年代別で見ると生活に与える影響に対する見方が 10 代男女と他の年齢層でだいぶ異なるのが目を引く。「良い影響」として「学習やスキルアップに役に立った」を挙げた 10~19 歳男性は 35.9%、10~19 歳女性は 36.9%と全体平均 15.3%を大きく上回り、年代別でも飛び抜けて高い。「(良い) 影響はない」も 10~19 歳男性は 4.9%、10~19 歳女性は 1.9%と全体平均の 10.1%を大き

く下回る。逆に「AIに頼りすぎて自分で考える時間が減った」は10~19歳男性39.8%、10~19歳女性43.7%と全体平均23.2%を大きく上る。

同様の違いは「今後生成AIをどのように活用していきたいと考えるか」という質問に対する答えにも見ることができる。「まずは安全性やリスクを確認したうえで、慎重に利用したい」という答えは全体で31.8%だったが、10~19歳男性は42.7%、10~19歳女性は46.6%と年齢層別で最も高い比率となっている。こうした回答状況に見られる違いをみると、10~19歳が生成AIの利用法や問題点について他の年齢層よりも深く考えていることをうかがわせる結果ともいえそうだ。

1年前の生成AI利用者26.7%

米企業「オープンAI」が2022年11月に公開した対話型生成AIサービス「ChatGPT」は対話型生成AIの利用を急激に拡大させただけでなく、政治的な反響も大きかった。翌2023年4月に高崎市で開かれた「先進7カ国（G7）デジタル大臣会合」では「生成AI技術の持つ機会と課題を早急に把握し、技術が発展する中で、安全性と信頼性を促進し続ける必要性を認識した」と、閣僚宣言に明記されている。さらに同年5月の「G7広島サミット首脳宣言」にも、生成AIの活用や開発、規制に関する国際的なルールづくりを推進する「広島AIプロセス」の創設が盛り込まれた。

以後高度なAIシステムの能力、限界、適切・不適切な利用領域の公表や、政府、市民社会、学界との間での責任ある情報共有などさまざまな責務をAI開発者に求める基準づくりに向けての国際的作業などさまざまな動きが進む。特に低年齢層に対する悪影響を重視し、対話型生成AIの使用規制を導入する国も出ている。

一方、主要国に比べ日本の対応の遅れを指摘する調査結果も相次いでいる。昨年7月総務省が公表した「情報通信に関する現状報告」（令和7年情報通信白書）では、2024年11月に米国スタンフォード大学発表した2023年のAI活力ランキングで日本は米国、中国、英国、インド、アラブ首長国連邦、フランス、韓国、ドイツの下の9位といった実態が紹介されている。何らかの生成AIサービスを「使っている（過去使ったことがある）」日本国民の割合は26.7%で中国81.2%、米国68.8%、ドイツ59.2%に比べ大きく見劣るという日本、米国、中国、ドイツの一般人に対し2024年11月から2025年3月にかけて総務省が実施したアンケート調査の結果も示している。

応答生成プロセスはブラックボックス

3月31日に開かれた内閣府の「人工知能（AI）技術の利用と消費者問題に関する専門調査会」会合では、対話型生成AIの現状や今回の調査結果でも示された「偽情報の拡散」など生成AIに対する懸念にかかわる資料も委員から提示された。対話型生成AIを可能にした大規模言語モデルの仕組み、問題点などが以下のように指摘されている。

問いかけが与えられると、その単語の情報の統合（文脈理解）と連想（知識の引き出し）などを経て、応答（続きの単語）を予測する。事前学習（基礎力養成）、事後学習（応用力や振る舞いの養成）を経て、応答を予測する能力が身に着く。その能力の源泉は膨大な学習データ（テキスト）にある。ただし、応答が生成されるまでのプロセスはブラックボックス（計算途中の数値を解釈できない）だ。

日文 小岩井忠道（科学記者）

関連サイト

内閣府「[第2回人工知能（AI）技術の利用と消費者問題に関する専門調査会](#)」
内閣府「[生成AI利用者の利用実態に関するアンケート結果速報](#)」

関連記事

2026年4月6日 客观日本 [博报堂五国创造性调查：中国对AI的期待尤为突出](#)

2025年07月25日 客观日本 [【日本信息通信白皮书】日美中德调查：生成式AI研发与应用能力日本处于劣势](#)

2025年01月30日 客观日本 [IT产品对中国的依赖日益加剧，日本企业竞争力下降明显](#)

2025年01月28日 客观日本 [日本年轻人对生成式AI看法不一：十多岁人群的48%认为会抢走人的工作](#)

2024年09月13日 客观日本 [日本在AI领域落后明显，全球最大AI学会的日本论文数量仅占2%](#)

2023年11月08日 客观日本 [消费者调查证实惊人结果：ChatGPT高关注和高期待](#)

2023年09月20日 客观日本 [“ChatGPT可以帮助设计，大学教育和高考也将改变？”](#)

2023 年 06 月 20 日 客观日本 [科学家团体推进讨论 AI 应用，政治家与科学家开始对话与共创政策](#)